

平成 2 7 年度

事業報告書

自 平成 2 7 年 4 月 1 日

至 平成 2 8 年 3 月 3 1 日

社会福祉法人 津野町社会福祉協議会

事業実績の概要

介護保険法改正や生活困窮者自立支援法の施行を受け、社会福祉協議会が取り組む課題も拡大し、更に支援の質の向上を強く求められるようになった。本会では、介護事業、就労支援事業や地域福祉事業、個別支援等、各種の事業を横断的に捉えながら、関係機関と連携し、伴走型の個別支援と地域福祉推進に努めた。

また、法人の財務状況を明らかにし、経営分析を可能にするための社会福祉法人会計基準の全面改正による新たな会計システムへの移行を行った。

平成27年度重点的な取り組みに関する評価

1. 住民のボランティア登録と活動へのよびかけ

地域福祉活動の核となるボランティアの把握とニーズに対応できる活動のマッチング、開発を目的に、各研修会等でボランティア登録の呼びかけを行ったが、活動のコーディネートや開発等については実施できなかった。

2. 地域サロンやあったかふれあいセンターの地域助け合い拠点としての役割強化

関係者会議等を通して、課題を共有する作業を行いながら取り組んだが、地域サロンにある多くの課題の存在にも気づき、次年度へのつながりとなった。

3. 福祉サービス利用援助、自立相談支援、地域活動支援センター在宅訪問等を通じた個別相談支援機能の充実

各事業を通して、個別相談支援活動を行ったが、職員体制の不備や啓発活動の不足もあり、総合相談としての機能は不十分だった。

4. 災害時避難困難者の把握と避難支援について地域協働で検討

町防災担当課と協働し、地域見守り活動と防災活動を一体的に取り組むために福祉委員・民生児童委員連絡会において、防災助け合い活動の協議及び災害時避難困難者の確認を行った。

1. 法人基盤整備・強化

(1) 理事会

理事会では課題や取り組みに対する積極的な議論を重ね、事業経過等についても明らかになるよう報告するなど努めた。県下社協役職員研修会にも出席し、社協が取り組むべき課題等について学んだ。

また、理事は、ふれあい配食サービス、歳末助け合い関係事業、福祉パトロール等の事業にも積極的に参加した。

理事会には、職員も参加し、役職員が課題意識の共有を図った。

(2) 監事

理事の業務執行状況を監査する立場から、理事会に出席し意見を述べた。平成26年度の事業及び会計監査は平成27年5月21日に実施し、指摘事項を会長及び事務局へ告げた。同時に監査報告書を作成した上で、理事会、評議員会に報告した。

理事会及び監事の動きは、次のとおり

開催・活動日	会議等の名称及び出席者数	議 題 及 び 内 容
平成 27 年 5 月 21 日 会場 津野町総合保健 福祉センター 「里楽」	平成 26 年度事業 及び会計監査 監事 2 名 (会長、事務局 3 名)	監査項目 ・平成 26 年度事業実績報告 ・平成 26 年度一般会計、特別会計決算審査 その他、監査結果の報告、会長、事務局長 との意見交換等

<p>平成 27 年 5 月 27 日</p> <p>会場 津野町福祉交流 センター</p>	<p>第 1 回理事会 理事 8 名 監事 2 名 (事務局 6 名)</p>	<p>〈議案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度事業実績報告 ・平成 26 年度一般会計収支決算の認定 ・平成 26 年度就労継続支援所特別会計収支決算の認定 ・平成 27 年度資金収支予算書補正予算(第 1 次) ・ボランティア活動・福祉教育推進事業助成金交付対象事業の承認 <p>〈協議・報告〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長専決事項報告 ・会長会務報告
<p>平成 27 年 6 月 17 日～ 18 日</p> <p>徳島県那賀町 兵庫県淡路市</p>	<p>高幡広域社協連絡 協議会被災地研修 理事 3 名 (事務局 2 名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豪雨災害における災害ボランティアセンターの取り組み ＜徳島県那賀町社協＞ ・阪神淡路大震災の教訓 ＜兵庫県淡路市 北淡震災記念館＞
<p>平成 27 年 7 月 15 日</p> <p>会場 須崎市総合保健 福祉センター</p>	<p>平成 27 年度市町 村社協会長等意見 交換会 会長 副会長 (事務局 1 名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県社協情報提供・意見交換 「社会福祉法の一部改正」 「あったかふれあいセンターの実施状況と今後の展開」 「生活困窮者自立支援法の本格施行状況」 「日常生活自立支援事業及び生活福祉資金」 「災害ボランティアセンターの役割等」 「県社協福祉人材センターの体制強化」
<p>平成 27 年 10 月 6 日</p> <p>会場 津野町総合保健 福祉センター</p>	<p>臨時理事会 理事 8 名 監事 2 名 (事務局 6 名)</p>	<p>〈協議報告〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民会員会費の状況報告 ・どんぐり農園過年度会計処理について ・平成 27 年度新会計基準に基づく会計処理状況について ・共同募金運動、歳末たすけあい運動について ・訪問介護、入浴介護の今後の見通しと対応について ・今後の社協体制について

<p>平成 27 年 12 月 18 日</p> <p>会場 津野町総合保健 福祉センター</p>	<p>第 2 回理事会 理事 8 名 監事 2 名</p> <p>(事務局 4 名)</p>	<p>〈議案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度資金収支予算書（第 2 次） <p>〈協議・報告〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進地研修報告 ・地域福祉活動報告 ・今後の社協事業予定 ・会長会務報告
<p>平成 28 年 2 月 15 日</p> <p>会場 県立ふくし交流 プラザ</p>	<p>監事研修・会計担 当者研修会</p> <p>監事 2 名</p> <p>(事務局 1 名)</p>	<p>[研修]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会監査のポイント ・社会福祉協議会会計の基礎
<p>平成 28 年 2 月 26 日</p> <p>会場 県立ふくし交流 プラザ</p>	<p>県市町村社会福祉 協議会役職員研修 会</p> <p>理事 4 名</p> <p>(事務局 2 名)</p>	<p>[基調説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人・社会福祉協議会を取り巻く現況と今後のあり方について <p>[行政説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉支援計画及び地域福祉活動計画について
<p>平成 28 年 3 月 25 日</p> <p>会場 津野町福祉交流 センター</p>	<p>第 3 回理事会 理事 8 名</p> <p>(事務局 5 名)</p>	<p>〈議案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度資金収支予算書補正予算（第 3 次） ・平成 28 年度事業計画 ・平成 28 年度資金収支予算 <p>〈協議・報告〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス利用援助事業「預かり物品の保管、使用に関する取扱い要領」 ・地域福祉を取り巻く動向 ・会長会務報告

(3) 評議員会

事業の円滑な遂行と法人運営について、次のとおり評議員会を開催し、協議した。

開催・活動日	会議等の名称及び出席者数	議 題 及 び 内 容
平成 27 年 5 月 27 日 会場 津野町福祉交流センター	第 1 回評議員会 評議員 15 名 監事 1 名 (会長、事務局 3 名)	〈議案〉 ・平成 26 年度事業実績報告 ・平成 26 年度一般会計収支決算の認定 ・平成 26 年度就労継続支援所特別会計収支決算の認定 ・平成 27 年度資金収支予算書補正予算 (第 1 次) 〈協議・報告〉 ・会長専決事項報告 ・会長会務報告
平成 27 年 12 月 18 日 会場 津野町総合保健福祉センター	第 2 回評議員会 評議員 15 名 (会長、事務局 3 名)	〈議案〉 ・平成 27 年度資金収支予算書補正予算 (第 2 次) 〈協議・報告〉 ・先進地研修報告 ・地域福祉活動報告 ・今後の社協事業予定 ・会長会務報告
平成 28 年 3 月 25 日 会場 津野町福祉交流センター	第 3 回評議員会 評議員 14 名 (会長、事務局 2 名)	〈議案〉 ・平成 27 年度資金収支予算書補正予算 (第 3 次) ・平成 28 年度事業計画 ・平成 28 年度資金収支予算 〈協議・報告〉 ・地域福祉を取り巻く動向について (研修報告) ・会長会務報告

(4) 住民会員会費制度

町内全域の成人に会員加入のお願いをしたところ、各地区長の支援、協力により、下記のとおりの実績があった。また、特別会員の加入についても、格段のご理解をいただき下記のような実績を上げることができた。

①個人会員

	会員数(人)	加入戸数(戸)	口数(口)	金額(円)
東地区	1,233	1,009	1,265	632,500
西地区	562	468	572	286,000
合 計	1,795	1,477	1,837	918,500
※前年度	1,903	1,559	1,939	969,500

②特別会員

	団体数	加入口数	金額(円)
町 内	37	40	200,000
※前年度	38	39	195,000



会費は、地域福祉活動推進のため活用し、加入状況、使途については、社協だより「あくしゅ」に掲載し、また、地区長会で報告した。

(5) 財源確保と運用

町より事務局経費を中心とした補助金支援を受けた。また、町、県、県社協からは、各受託事業の必要経費を受け入れた。

訪問介護及び訪問入浴介護は、利用者減により厳しい状況となり、不足分を町より支援を受けた。また、町を通して、県補助事業である「中山間地域介護サービス確保対策補助金」を受けた。介護職員処遇改善加算分については、受け入れ後、介護職員等に一時金として交付した。

就労継続支援事業所には、運営費収入と職員体制のバランスに課題が生じ、運営費収入の活用に課題を残したが、福祉人材処遇改善加算は、現場スタッフへ一時金として交付することができた。生産事業は、役場庁舎の清掃作業など町受託事業や外販活動を強化することに努めた。

(6) 職員体制

本所、西支所及び就労継続支援事業所「どんぐり農園」、「作業所里楽」にそれぞれ職員を配置した。職員の特別休暇等の取得対応について年度途中での職員体制の変更を行い対応した。生活困窮者自立支援事業の本格実施等で受託事業の取り組み幅の拡大や支援ケースの増加等により、きめ細かい個別支援や地域福祉事業への取り組みに関する課題が残った。

☆ 平成28年3月現在の職員体制

本所	事務局長 1名 ※就労継続支援事業所 管理者兼務		西支所	支所長（事務局長兼務）（1名） 主任 1名 主幹 1名 ※就労継続支援サービス管理責任者 事務職員（臨時） 1名 配食員（非常勤） 2名 訪問介護員（非常勤） 2名		
	主監 1名 ※訪問介護・訪問入浴介護事業所管理者兼務 主任 1名 主幹 1名 ※地域活動支援センター施設長兼務 主事 1名 ※訪問介護事業所サービス提供責任者 事務職員（臨時） 1名 事務職員兼訪問介護員（臨時） 1名 あったかふれあいセンター職員（臨時） 3名 （非常勤） 1名 ※（内1名）コーディネーター 地域活動支援センター支援員（臨時） 1名 自立相談支援事業相談支援員（臨時） 1名 訪問介護員（非常勤） 5名 入浴運転士（非常勤） 1名 産休代替職員（臨時） 1名			就労継続支援事業所 サービス管理責任者 1名 ※西支所主幹 兼務 目標工賃達成指導員（臨時） 1名 [どんぐり農園] 職業指導員（臨時） 1名 生活支援員（臨時） 1名 生活支援員（非常勤） 1名 スタッフ（非常勤） 3名 [作業所里楽] 職業指導員（臨時） 1名 生活支援員（臨時） 2名 職業指導員（非常勤） 1名		
業務項目			正職員	臨時職員	非常勤職員	計
法人運営 地域福祉事業			4名	8.5名	3名	15.5名
介護事業			2名	0.5名	8名	10.5名
就労継続支援事業			1名	6名	5名	12名
計			7名	15名	16名	38名

2. 企画・広報事業

(1) 社協だより「あくしゅ」の発行

毎月1日を発行日として、年間12回発行した。各地区長に協力をいただき、全戸配布を行い、また町内の金融機関や公共施設、交流施設等関係機関へも配置をお願いし、住民の目に多くふれていただくよう努めた。

A4サイズ、全6ページ1色刷り、2月号についてはカラー印刷の体裁で作成した。

(2) 社協リーフレット「こんにちは社協です」作成、配布

社協会員募集時(7月)に、社協の事業概要などを紹介したパンフレットを作成し、全戸に配布した。パンフレットの裏面には、住民の安心を支援するため、「お守りカード」を刷り込んだ。原稿作成、印刷は事務局で行った。

(3) 健康ふくし展への参画

サロン対抗輪投げ大会、歳末助け合い「もち販売」など多くの協力を得て実施できた。「作業所里楽」の喫茶コーナー開設や「どんぐり農園グリュース」も花などの販売をし、収益につなげた。

開催日 平成27年11月22日(日)

場所 東津野B&G海洋センター駐車場

〈サロン対抗輪投げ大会〉

参加チーム： 31チーム

1位 力石つくし会

2位 西黒川サロンB

3位 永林サロン

〈歳末助け合いもち販売〉

売上げ：139,200円

協力者：民生児童委員、社協役職員

３． 支え合いのしくみづくり

（１）福祉委員活動推進

平成 27 年度福祉委員・民生児童委員連絡会出席状況

開催日	対象地区	参加者数（延人数）							実人数
		福祉委員	民生委員	地区長	消防団	一般	行政	社協	
4 月 14 日	鳥出川、力石	4	1	1	5	0	1	3	1 2
4 月 15 日	桂、桑ヶ市、西倉川、 岩土、船戸町、船戸 奈路、西の川、中村	6	3	7	4	1	1	5	2 3
4 月 16 日	新土居	4	1	4	4	0	1	3	1 6
	北川、大古味	2	2	2	2	0	1	4	1 2
4 月 17 日	三間川、樺ノ川 西谷	5	1	3	6	0	1	3	1 9
4 月 20 日	高野	7	1	1	5	0	1	3	1 6
4 月 21 日	大野、藤ノ川、 鍵野々	3	1	3	0	1	1	3	1 1
4 月 22 日	下野、芳生野奈路	3	1	1	2	1	1	2	1 1
	床鍋	9	1	1	5	1	1	4	1 9
4 月 23 日	上井田、久保川	3	1	2	5	1	1	2	1 5
	郷	5	2	3	0	0	1	3	1 2
4 月 24 日	永野、貝ノ川 川の内	5	1	5	4	0	1	2	1 6
4 月 27 日	新田、保井川	5	1	2	2	0	1	5	1 4
5 月 1 日	宮谷、木桑	4	1	2	7	0	1	4	1 4
5 月 8 日	姫野々	4	2	4	1	0	1	2	1 3
5 月 11 日	船野、東倉川、 舞ノ川、栗ノ木	2	1	2	2	0	1	3	1 1
5 月 13 日	白石	8	2	9	2	1	1	4	2 3
5 月 14 日	黒川、白河瀬	5	1	3	2	0	1	3	1 4
	赤木、桑ノ川、 梶足	6	1	4	2	0	1	2	1 2
5 月 15 日	杉ノ川	5	1	2	1	0	1	2	1 2
合計（20 会場）		95	26	61	61	6	20	62	295

東地区 95 名、西地区 68 名の福祉委員が、各地域で活動された。

東地区は、平成 27 年 12 月末日の任期満了に伴い、委員推薦を各地区長に依頼し、推薦を受けた方を本会会長より委嘱した。

福祉委員活動をわかりやすく説明し、また、地区内でも福祉委員活動を理解してもらいやすいように「福祉委員の手引き」を作成した。

福祉委員活動の周知と民生児童委員との連携を強めるため、また、地域の助け合いと防災活動の一体的推進のために、4 月 14 日から 5 月 15 日の間、町内 20 会場で「福祉委員・民生児童委員連絡会」を開催した。本会の業務説明、防災活動の紹介の他、福祉委員のしくみや役割の説明と地図を使つての災害時避難困難者の把握、地域との情報交換、情報共有を行った。



(2) 福祉パトロール

町内の 70 歳以上の一人暮らし高齢者や 75 歳以上の高齢夫婦世帯等に対して、民生児童委員、行政、消防、警察、ボランティアグループなど福祉関係団体の協力により安心・安全見守り台帳の聞き取り訪問調査を行った。

新たに対象者となった方には個人情報使用同意書に署名してもらった。

項 目	東 地 区	西 地 区
実 施 日	6 月 23 日 (火)	6 月 26 日 (金)
訪問世帯・人数	197 世帯・253 人	154 世帯・206 人
協力者数	66 人	95 人



(3) 安心・安全見守り台帳とお守りカード

高齢者等を対象にした福祉パトロールで、緊急連絡先やかかりつけ医、就寝場所などを聞き取り、安心・安全見守り台帳を作成した。その台帳の情報から「お守りカード」を作成し、640人の在宅一人暮らし高齢者等へ配置した。

配置者数	：東地区	320人
	西地区	320人

(4) 住民参加型助け合い制度「ほっとサービス」

一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、障がいのある方等の暮らしの支援として住民参加によるサービスを実施した。

[平成27年度中 受付件数：24件]

<利用実績：18件>

粗大ごみの処理	・ ・ ・ ・ ・	3件
蜂の巣の除去	・ ・ ・ ・ ・	3件
庭木の剪定	・ ・ ・ ・ ・	3件
家周辺の草引き	・ ・ ・ ・ ・	2件
樋の掃除	・ ・ ・ ・ ・	2件
部屋の掃除	・ ・ ・ ・ ・	1件
墓掃除	・ ・ ・ ・ ・	1件
家周辺・背戸の草刈り	・ ・ ・ ・	1件
畑の耕作	・ ・ ・ ・ ・	1件
包丁、鎌研ぎ	・ ・ ・ ・ ・	1件

<その他の対応：6件>

親族対応	・ ・ ・ ・ ・	1件
本人入院	・ ・ ・ ・ ・	2件
その他のキャンセル	・ ・ ・ ・	3件

協力会員：延22件
延稼働時間：41.5時間



(7) ふれあい配食サービス

一人暮らし高齢者等への昼食宅配サービス。東地区では、月4回、西地区では、月3回実施した。ボランティア、民生児童委員の全面的な協力を得て、一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯等で希望される方に手作り弁当を届けた。

また、住民の方から多くの食材料の提供をいただいた。

ボランティア、民生児童委員の配達時には、話し相手や安否確認などもでき、心の交流につながった。

配達ボランティア同士の交流を図るため、12月7日、四万十市西土佐の地域住民で設立した株式会社「大宮産業」を訪れ研修を通して親睦を深めた。23名の参加があった。



年間の配食数等は次のとおり。

	配食数（食）	利用者数（人） （4月時点）	調理ボランティア （延人数）	配達ボランティア （延人数）
東地区	2, 275	48	305	446
西地区	2, 496	75	273	344
計	4, 771	123	578	790
※前年度	4, 181	133	543	723

(8) 生活支援型配食サービス

町からの受託事業として実施。ケア調整会議で必要と認められた方へ昼食を配達した。全町で毎日型の配達を実施した。一般食は、町内飲食業者、特別食は、特別養護老人ホームに調理を委託し、配達は大協職員が対応した。安否確認や必要がある場合には、関係機関への連絡等、在宅生活の継続を支援した。

平成 27 年度 月別実績

月	東 地 区		西 地 区		津野町全体	
	利用実 人数(人)	配食数 (食)	利用実 人数(人)	配食数 (食)	利用実人数 (人)	配食数 (食)
H27.4月	11	162	7	117	18	279
5月	11	177	8	132	19	309
6月	10	163	8	121	18	284
7月	11	168	8	122	19	290
8月	11	151	6	104	17	255
9月	11	149	6	101	17	250
10月	12	192	6	130	18	322
11月	11	164	6	116	17	280
12月	10	171	7	146	17	317
H28.1月	10	152	6	128	16	280
2月	11	159	6	97	17	256
3月	11	204	6	97	17	301
計	130	2,012	80	1,411	210	3,423
※前年度	113	1,997	98	1,776	211	3,773

(9) あったかふれあいセンター

町より受託し、5か所のサテライト拠点で週1回のペースで実施した。現場スタッフ3名に加えて送迎及び支援を充実させるため非常勤1名を増員した。

地域ボランティアの協力を得て、介護予防の取り組みやレクレーション、趣味の活動、地域包括支援センター、保健師等の関係機関との連携活動など工夫した取り組みを行った。また、サテライトセンター毎に、「利用者会議」や「実行委員会」を実施した。

支援の必要な高齢者の参加等の課題も増えてきたため、県のアドバイスを受けながら、地域包括支援センターとケース検討会を実施した。

配慮の必要な利用者については、随時、地域包括支援センター等の関係機関へ相談、報告を行った。

[集い]

サテライト 名称	開設日 数	利用者数（延人数）					前年度 利用者数	前年度 開設日数
		高齢者	障がい者	子ども	その他	合 計		
いちちょうの 郷	42	828	0	8	4	840	1,123	44
鶴松の風	46	1,830	0	47	48	1,925	2,118	49
新田 くつろぎ家	47	693	0	18	13	724	806	48
いらずの さと	48	972	0	9	8	989	902	48
せんだん	48	1,344	26	18	90	1,478	1,937	49
合 計	231	5,667	26	100	163	5,956	6,886	238

[機能別利用者数（延人数）]

集い(再掲)	送迎	訪問	生活支援	外出支援	相談
5,956	2,827	93	418	0	17

[スタッフ会議等の開催状況（延回数）]

ケース検討会	スタッフ会	スタッフ全体会
11	17	9



(10) 地域のサロン

各地区の地域性やニーズに合わせたサロン活動が地域の創意工夫で展開され、本会では、サロンの運営上の相談を受け支援等を行った。

サロン世話人連絡会では、介護予防の取り組みの必要性や重要性を情報提供し、また、各サロンで課題となっている内容について意見交換と話し合いを行った。

サロン運営の支援やあり方を探るため、昨年度に引き続き、定期的に町との情報交換を行った。

平成27年度開催実績

報告サロン数	35か所（東地区 24か所 西地区 11ヵ所）
開催回数	延669回（東地区 493回 西地区 176回）

《サロン世話人連絡会》

平成27年4月15日（水）

参加者 22サロン32名



4. 福祉教育・ボランティア活動

(1) ボランティア活動・福祉教育推進事業助成金交付事業

津野町内の小、中学校が行う地域でのボランティア活動や福祉教育・伝承活動の取り組み支援することを目的として、助成を行った。

助成校 町内全小中学校 5校

ふれあい参観日の実施、収穫祭等のまつり、
地域の高齢者への年賀状書き、24時間テレビ
チャリティキャンペーンへの参加、伝統文化継
承（神楽）

(2) 福祉教育・ボランティア学習の推進

津野町内の小・中学校と連携し、福祉体験活動に取り組んだ。

① ふれあいサロン・老人クラブとの交流事業

葉山小学校交流もちつき 平成27年12月11日
（白雲サロン、城下町サロン、姫寿会）

② 福祉の出前講座

平成27年12月18日

東津野中学校2年生対象

（民生児童委員、主任児童委員、社協職員による授業）

(3) ボランティアセンター機能の強化

ボランティア活動の把握、及び地域に合った福祉活動が活性化することを旨として、ボランティア台帳への登録を推進した。

平成27年度末 個人ボランティア登録97名(東41、西56名)

ボランティア保険加入手続きを実施した。ボランティア保険加入者は、10グループ156人。ボランティア行事用保険加入手続きは24件行った。

また、町内各種のボランティア関連団体の連絡調整組織として、津野町ボランティア連絡協議会の事務局運営を行った。各ボランティアグループへのお知らせ活動は、情報誌「ぼらんていあ」を1回発行した。総会は、6月4日に開催した。事業は、特に24時間テレビチャリティーイベントへの取り組みを中心に行った。

加入団体は、19団体だった。

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| ・新土居江島保存会 | ・津野町婦人会 |
| ・葉山民踊クラブ | ・葉山荘ボランティア委員会 |
| ・フォークダンス葉山 | ・シルバー介護士会「ひだまり」 |
| ・竹輪会 | ・ちぎり絵サークル |
| ・津野町ひまわりの会 | ・ボランティア清流 |
| ・津野町食生活改善推進協議会 | ・S・I・C(白石クラブ) |
| ・津野町民生児童委員協議会 | ・ふれあい菊の会 |
| ・JA土佐くろしお女性部葉山支部 | |
| ・城下まつり in 姫野々 | ・津野町救急ボランティア |
| ・津野町姫野々地区ラジオ体操愛好会 | |
| ・津野町障がい者自立支援ボランティアわきあいあい | |

24時間テレビ「愛は地球を救う」チャリティーキャンペーンの実績は以下のとおり。

ボランティア連絡協議会を中心として、賛同団体による実行委員会を組織し、津野町全体の取り組みを行った。社協は事務局業務を行い、テレビ局との調整、輪投げ大会等の内容企画実施、募金の集計送金等を行った。

実施日	平成27年8月22日
津野町会場	葉山の蔵、津野町役場西庁舎
募金送金額	630,942円

(4) 災害ボランティアセンター運営会議

南海地震に備え、平常時から、地元団体が自力で「災害ボランティアセンター」の設置、運営ができるように、35の各種団体・機関と共に体制づくり、体制強化を図った。

実施日	事業名	参加者数
12月15日	第1回災害ボランティアセンター運営会議 ・事業報告 ・防災とボランティアフェスティバルについて	17名
1月23日	町防災とボランティアフェスティバル ・起震車体験 ・非常食試食 ・救援救助、応急手当 ・耐震診断相談 ・消火器相談 ・防災かるた、絵本読み聞かせ	105名
3月16日	第2回災害ボランティアセンター運営会議 ・防災とボランティアフェスティバル振返り ・来年度事業内容について	23名
3月19日	被災地生活支援フォーラム2015 ・シンポジウム「高めようフダンのチカラ」	7名

6月には、高幡広域社協災害時支援協定に基づく協力体制の確保のために高幡広域社協連絡協議会の被災地研修に理事3名、職員2名が参加をした。徳島県那賀町社協（災害ボランティアセンター）及び北淡震災記念館で研修を行った。



▲ 1月23日 防災とボランティアフェスティバル

(3) 日赤（赤十字）社資募集

赤十字事業の啓発に努め、その活動資金となる社資募集を「赤十字社員増強月間」である5月に行った。各地区長の協力で次のとおりの実績があった。

目標額	838,000 円
実績額	1,001,100 円
災害積立金	456,955 円

6. 在宅介護支援事業

(1) 介護保険サービス「訪問介護」の実施

居宅サービス計画に沿った訪問介護計画の作成を行い、利用者との信頼関係を大切にして、計画に基づいたサービスの提供を行った。

定期的なケース検討会、ヘルパーの資質向上のための職場内研修（接遇、記録の書き方、救急法）を行った。

前年度に比べ利用が減少し、経営的に厳しい状況となった。

平成27年度利用実績

月	利用者数（実人員）		稼働ヘルパー数 （実人員）
	27年度	※前年度	
4月	22	28	8
5月	22	29	8
6月	23	26	8
7月	23	24	8
8月	22	23	8
9月	22	24	8
10月	22	25	8
11月	21	27	8
12月	21	29	8
1月	20	29	8
2月	21	24	8
3月	21	22	8
合計	260	310	96

（参考：平成25年度利用者数実績 354人）

平成 27 年度サービス内容別提供数

サービス内容	提供回数(回)		延時間 (時間)	
	27 年度	※前年度	27 年度	※前年度
身体介護	612	566	377	402
生活援助	873	1,451	873	1,451
身体＋生活	264	394	290	419
介護予防	522	746	522	749
合 計	2,271	3,160	2,062	3,021

(参考：平成 25 年度延時間実績 3,737 時間)

(2) 介護保険サービス「訪問入浴介護」の実施

自宅で安全に安心して入浴をしていただくことによって、身体の清潔保持ができ、在宅での生活を支援することができた。昨年度に比べ利用は減少し、運営は厳しかった。

平成 27 年度利用者数

月	利用者数 (実人員)		利用回数 (延)		スタッフ数 (延人数)	
	27 年度	※前年度	27 年度	※前年度	27 年度	※前年度
4 月	2	0	5	0	20	0
5 月	1	0	2	0	8	0
6 月	1	1	2	3	8	12
7 月	1	1	2	5	8	20
8 月	1	1	1	3	4	12
9 月	1	1	1	4	4	16
10 月	1	1	3	4	12	16
11 月	1	1	2	3	8	12
12 月	1	1	2	2	8	8
1 月	1	1	2	2	8	8
2 月	1	2	1	4	4	16
3 月	1	2	3	6	12	24
合 計	13	12	26	36	104	144

(参考：平成 25 年度利用延回数 57 回)

(3) 障害福祉サービス「居宅介護」の実施

心身に障がいをもつ方の在宅生活を支援するために、利用者の身体機能の維持や心のケアに配慮したサービスに努めた。

利用者の生活の質を高めるため、町相談支援事業所、町障害担当保健師及び他サービス関係スタッフによるケース会議に出席した。

平成27年度利用実績

利用月	利用者数 (実人員)	利用時間 (延)
4月	4	20.5
5月	3	23.0
6月	3	21.5
7月	3	17.5
8月	3	25.0
9月	3	20.0
10月	3	25.0
11月	3	20.0
12月	2	17.5
1月	2	15.5
2月	2	17.0
3月	2	18.0
計	33	240.5
※前年度	延40	延201

(4) 移動支援事業

外出のための移動に困難がある障がい児・者の日中の地域での自立生活及び社会参加を促すことを目的とする事業で、町より受託し、介護職員による移動支援を行った。

平成27年度利用実績

利用月	利用者 (実人数)	利用日数	利用時間
4月	0	0	0
5月	1	1	10.5
6月	0	0	0
7月	1	2	12.0
8月	2	4	27.0
9月	1	1	9.0
10月	0	0	0
11月	1	2	8.2
12月	1	1	1.0
1月	2	2	7.0
2月	1	1	1.0
3月	1	1	1.0
計	延 11	延 15	延 76.7

(5) 福祉用具貸与・介護用品あっせん事業

介護保険利用の有無にかかわらず、気軽に福祉用具を利用していただけるように貸与を行った。ベッドの搬出入は、本会事務局で行った。

通院時や外出時のみの車椅子貸与を無料で行うなども行った。介護用品の斡旋については、本会事務局で相談を受けながら対応した。

所有用具	保有台数		貸し出し利用人数	
	27年度	※前年度	27年度	※前年度
電動ベッド	13	14	長期18 短期 1	長期13 短期 0
車椅子	12	18 (施設貸出7台含む)	長期 3 短期61	長期 8 短期52
介助バー	1	1	0	0

7. 就労継続支援事業所の運営

障害福祉サービス就労継続支援（B型）事業所として、どんぐり農園グリーン・作業所里楽を一体的に運営し安定した経営を行った。運営は、職員会を基に行い、支援については、個別支援会議及びモニタリング会議等により個別支援計画を作成し、個人の能力や心理、体調等の状況把握を行いながら指導及び支援を行った。また、職員の資質向上を図るため、町相談支援事業所との連携を図り、ケース会議や各種研修会に積極的に参加し、支援のスキルアップと組織力向上を図った。

本年度当初は、利用者 24 名であったが、1 名の新規利用者、1 名の退所者で最終的に 24 名（内 2 名は、長期休養、入院）の利用となった。また、作業所里楽の利用者 1 名に対し、就労支援を行い葉山荘の清掃で一般就労することになった。

売上として、どんぐり農園では、主に花・野菜（ハナニラ）・苗木の売上・クリスマスツリーのリース、町受託作業による収入、作業所里楽では、町受託作業、葉山荘清掃委託事業、クッキー・喫茶・自動販売機・アイスクリーム・プール用品等の売上げでの収入があった。また、両事業所が協力し合いながら精力的にイベント等で販売活動を行った。

本年度は、作業所里楽が一泊研修旅行を実施し、利用者 11 名、家族 2 名、職員 6 名が参加した。香川県善通寺市の善通寺希望の家、レオマワールド、讃岐まんのう公園を訪れた。

平成 27 年度利用実績

月	利用者数 (実人員)	利用者数 (延人員)	内 訳	
			どんぐり 農園	作業所 里楽
4 月	24	445	204	241
5 月	23	370	158	212
6 月	23	461	191	270
7 月	23	418	179	239
8 月	23	364	160	204
9 月	23	356	153	203
10 月	23	423	189	234
11 月	22	367	164	203
12 月	23	363	166	197
1 月	21	298	133	165
2 月	21	358	171	187
3 月	23	420	195	225
合 計	272	4,643	2,063	2,580
※前年度	270	4,794	2,049	2,745

平成27年度月別実績

月	行事・会議	販売活動
4月	遠足（どんぐり・里楽）、職員会 衛生教室（どんぐり・里楽）、交通安全教室（どんぐり・里楽）	婦人会総会 町内教職員研修会
5月	レクリエーション（どんぐり・里楽）	春の特産市 老連総会 障がい連総会
6月	事業所見学（里楽）、福祉職員初任者研修、職員会 歯科教室（里楽）	一陽祭
7月	視察研修（どんぐり）、歯科教室（どんぐり） 熱中症予防教室（どんぐり・里楽） 視察研修（里楽）	輪の会販売
8月	料理教室（どんぐり・里楽）、合同職員会 食事会（里楽）	町内教職員研修会
9月	衛生教室（里楽）、レクリエーション（里楽） 日高養護学校体験受入れ（里楽） 避難訓練、消火訓練（どんぐり） 全日本手をつなぐ育成会全国大会名古屋大会 福祉サービス苦情解決セミナー	
10月	衛生教室（どんぐり）、交通安全教室（どんぐり） 一泊研修：香川県（里楽）	老人大学 老人体育大会
11月	産業祭・健康ふくし展（どんぐり・里楽） 高知県知的障害者育成会連絡協議会 避難訓練（里楽）	産業祭・健康ふくし展 教育フォーラム 高橋病院梅寿祭 高幡精神保健家族会 研修会 津野町未来創造塾
12月	年末交流会（どんぐり農園・里楽） 福祉職場の労務管理研修会	クリスマス会
1月	職員会、レクリエーション（どんぐり）、食事会（どんぐり） 障害者サポート研修、食事会（里楽）	防災ボランティアフェスティバル
2月	事業所職員研修、救急法講習会、栄養教室（どんぐり・里楽） サービス管理責任者スキルアップ研修会 事業所見学（どんぐり）	
3月	職員会、事業所見学（里楽） 新規利用者利用開始（里楽） コミュニケーション専門研修	

8. 地域活動支援センターの運営

町内の障がいのある住民が交流活動やレクレーションを通じて、地域との交流や仲間づくりを行うために、毎月「わきあいあい広場」を実施し、また、集団生活に馴染みにくい在宅障がい者が生活の訓練などを行う「わきあいあい広場ミニ」を開設した。

ご本人や家族の抱える困りごとに対応するために支援員が在宅訪問を行い、生活状況把握や悩み事を聞かせていただき、関係機関と共に情報共有した。

学校の長期休暇期間中には、障がい児童、生徒対象に「障害児長期休暇支援事業」を実施し、関係者及び支援ボランティアの協力を得て、子どもたちの様々な体験や遊びを提供し、楽しい休暇を過ごしてもらうことができた。

《わきあいあい広場》

町内の障がい者の交流事業として毎月実施した。

参加を通して、社会生活の幅が広がり、日常生活の中でも声掛けができる仲間となってきた。



実施日	内 容	参加者数（人）	
		障がい者	ボランティア・職員
4月21日	調理、草むしり（新土居花壇）	12	6
5月21日	調理、スポーツ（卓球バレー、卓球）	11	10
6月30日	衛生教室、調理、室内グランドゴルフ	10	11
7月14日	調理、陶芸	11	8
8月31日	お出かけ（愛媛県西条市：鉄道歴史パーク）	19	15
9月29日	調理（防災食）、防災についての勉強会	9	4
10月13日	調理、ノルディックウォーキング	12	12
11月26日	調理、年賀状書き	10	7
12月15日	調理、ケーキ飾り付け、クリスマス会	14	10
1月26日	調理、室内ゲーム	8	5
2月18日	お出かけ（四万十町：ひなまつり見学）	16	10
3月9日	調理、次年度話し合い	11	9
合 計		143	107
※前年度		176	130

《わきあいあい広場ミニ》

日中の居場所を確保し、自分のペースで社会的な体験ができる場として、開設した。集団の中では対応できにくい個性と障害特性への配慮をしつつ生活課題に向き合った。

実施月	内 容	利用者数 (人)
4 月 (2 回)	調理、カラオケ、散歩	8
5 月 (2 回)	調理、カラオケ、室内ゲーム、座談	7
6 月 (2 回)	調理、カラオケ、買い物、座談	6
7 月 (2 回)	調理、天狗高原、カラオケ	6
8 月 (1 回)	調理、カラオケ	3
9 月 (2 回)	調理、散歩、座談、工芸教室	4
10 月 (1 回)	調理、カラオケ	4
11 月 (2 回)	調理、読書、座談、散歩	3
12 月 (2 回)	調理、室内ゲーム、カラオケ、座談	5
1 月 (2 回)	調理、読書、座談、カラオケ	3
2 月 (2 回)	調理、読書、カラオケ、室内ゲーム	4
3 月 (2 回)	調理、口座区、手芸	3
計		56

《生活相談事業》

在宅で暮らされている障がいのある方々のうち、町より訪問依頼のあった方に支援員が訪問し、日ごろの困りごとなどの聞き取りを行った。制度への手続き支援を行ったり、生活課題の把握を行った。

実人員 19 人
訪問回数 36 回

《障がい児長期休暇支援事業》

事業開始にあたって、保健師等町関係者との協議や関係する学校との連絡をとりながら、子どもたちが楽しい休暇を送れるよう支援した。14 日間の全日程で、送迎やスタッフの事前打ち合わせ及び反省会も行った。中土佐町の子どもたちとも交流をはかった。



実施内容・参加者数

実施日	内 容	参加者数（人）		
		対象児童・生徒	ボランティア	社協職員＋町職員
7月23日	スポーツ、習字教室、宿題	9	10	5
7月27日	調理、プール、宿題	8	12	4
7月29日	音楽療法、プール、ゲーム	7	8	5
8月 4日	調理、陶芸、宿題	13	18	6＋5
8月12日	中土佐町のなかまと交流	7	10	3
8月13日	調理計画、宿題、ゲーム、プール	9	6	4＋4
8月18日	調理計画、宿題、ゲーム、プール	11	12	5
8月20日	調理、プール、宿題	10	15	4＋1
8月24日	調理、歯科教室、工作教室	13	13	4＋2
8月26日	高知市：障害者スポーツ体験	9	7	3＋2
8月28日	調理、プール	12	14	5＋1
1月 5日	調理計画、科学の実験、工作、おやつ作りの計画、ゲーム	9	6	3＋1
1月 6日	調理、おやつ作り	8	8	2＋1
3月29日	工作、次年度話し合い、公園で自由遊び	5	5	2＋1
合 計		130	140	55＋18
※前年度		142	141	67＋8

9. 生活相談・個別支援

(1) 生活福祉資金貸付制度の活用支援

高知県社会福祉協議会との契約によって借受世帯に対する償還支援を実施した。特に、生活困窮者自立相談支援事業とも連携し、滞納世帯については、個別訪問を行った。新規の借受け決定は4件であった。

平成27年度末現在貸付件数 18件
 東地区 5件 (4人)
 西地区 13件 (11人)

(2) 日常生活自立支援事業の利用援助

日常生活を送る上で、自分ひとりでは判断することが難しい高齢者や障がい者の方々が安心して生活が送れるように、福祉サービス利用援助と日常的な金銭管理を行った。専門員は本会職員があたり、生活支援員（非常勤）と情報共有しながら取り組んだ。

年度	利用者実人数	支援時間（延時間）
平成19年度	1	
平成20年度	2	
平成21年度	3	
平成22年度	4	
平成23年度	5	
平成24年度	5	
平成25年度	6 (内新規契約者2名)	45.5時間
平成26年度	6 (内新規契約者2名)	125.5時間
平成27年度	8 (内新規契約書2名)	140.0時間

(3) 生活困窮者自立相談支援事業

生活困窮者自立支援法が平成27年4月1日施行され、モデル事業期間の2年間の活動を基に、高知県より「自立相談支援事業」を受託し、本格実施の初年度となった。

生活保護に至る前の生活困窮者に対し、「就労支援」、「その他の自立に関する問題について相談・支援」を行った。

相談支援員を中心に事業の理解と個別相談対応の資質を向上させるために各種の研修会へ積極的に参加した。

また、町校長会や民生児童委員協議会定例会、町関係部署との協議及び協力依頼を行った。

生活福祉資金滞納世帯の訪問、担当民生児童委員からの引きこもり世帯の情報提供を受けての同行訪問なども行った。

引きこもりの若者無業者の支援のために、若者サポートステーション、教育委員会、町住民福祉課と協力体制をとり、定期的な関係者会議を開催した。支援の糸口の見える若者から同行訪問を行い、若者サポートステーションにつないだ。

特に、計画的・継続的に支援を行う必要のある2件については、自立支援計画を策定し、支援調整会議を5回開催した。

フードバンク活動に関して、町内でも呼びかけを行い、食糧提供を受けた。県下のフードバンクも併せて活用し、4名支援した。

10. 福祉団体の活動支援

各団体の事業計画に基づき、役員を中心とした事業運営が円滑に行われるよう支援した。事務局として活動した団体は、次のとおり。

(1) 民生児童委員協議会 事務局

本会と協働しながら、福祉パトロール、安心安全見守り台帳作成等に主体的に関わり、調査、調整、学習活動等を行った。

毎月の定例会開催や学校訪問の調整、会計事務、防災セミナー開催事務など事務局業務を行った。

また、須崎福祉保健所管内民生児童委員連絡協議会の総務事務も行った。

(2) 老人クラブ連合会 事務局

地域老人クラブの衰退が進む中、会員同士の親睦・交流を第一に考え、事業実施に取り組んだ。

各事業には役員を中心に取り組み、事務局としては各単位クラブとの連絡調整、町や県老人クラブ連合会との調整を行った。

また、「自分の健康づくり」をテーマとして、3B体操の講習を定期的に行うなどスポーツ推進、交流事業等の活動を支援した。

(3) 障がい（児）者連合会 事務局

町内会員の交流を目的に、役員が中心となり事業企画を行った。行事には、ボランティア団体（シルバー介護士会、自立支援ボランティアわきあいあい）の協力を得て、多くの会員、家族が親睦を深めることができた。また、地域住民と共に国道沿いの花壇の美化活動を行うなど社会貢献にも力を入れた。事務局として、各事業の調整、周知とりまとめ、会計事務など行った。

(4) 母子寡婦団体「ひまわりの会」事務局

ボランティア活動、収益事業を展開した。特に葉山荘での「喫茶ボランティア（月2回）」を実施した。

更に、活動費を得るために“めんつゆ”等の販売の支援を行い、会員同士の親睦旅行等を行うことができ、会員同士の交流も図れた。

(5) シルバー介護士会「ひだまり」事務局

一人暮らし高齢者等の在宅訪問活動が定期的（月1回）に実施できるよう、訪問世帯の調整や訪問後の心配なケースを関係機関へつなぐなど支援した。また、一人暮らし高齢者等を招き、一日宅老所「ひだまり」を3回実施した。